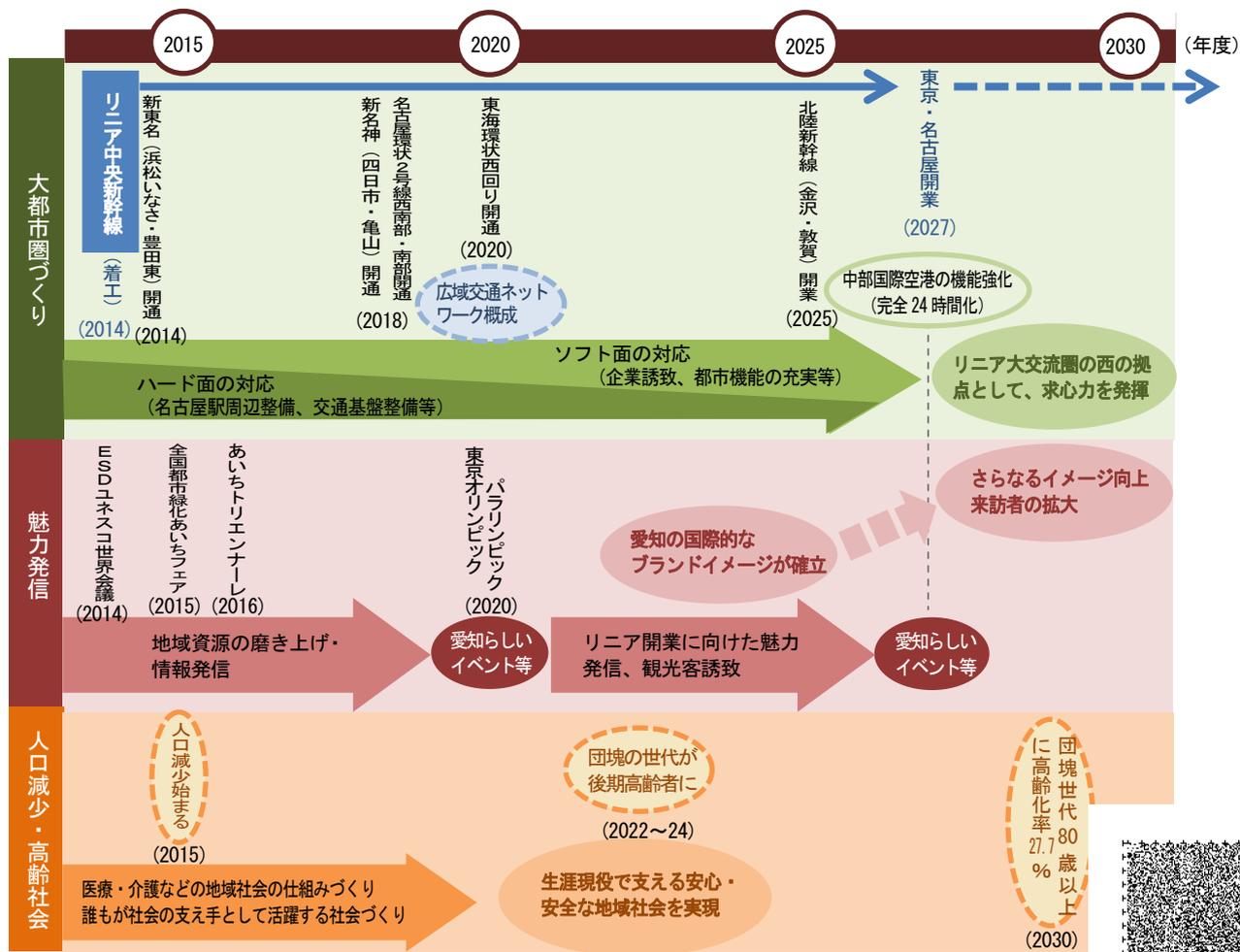


Ⅲ 2030年に向けた地域づくりの戦略と基本目標

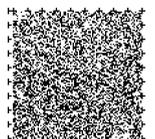
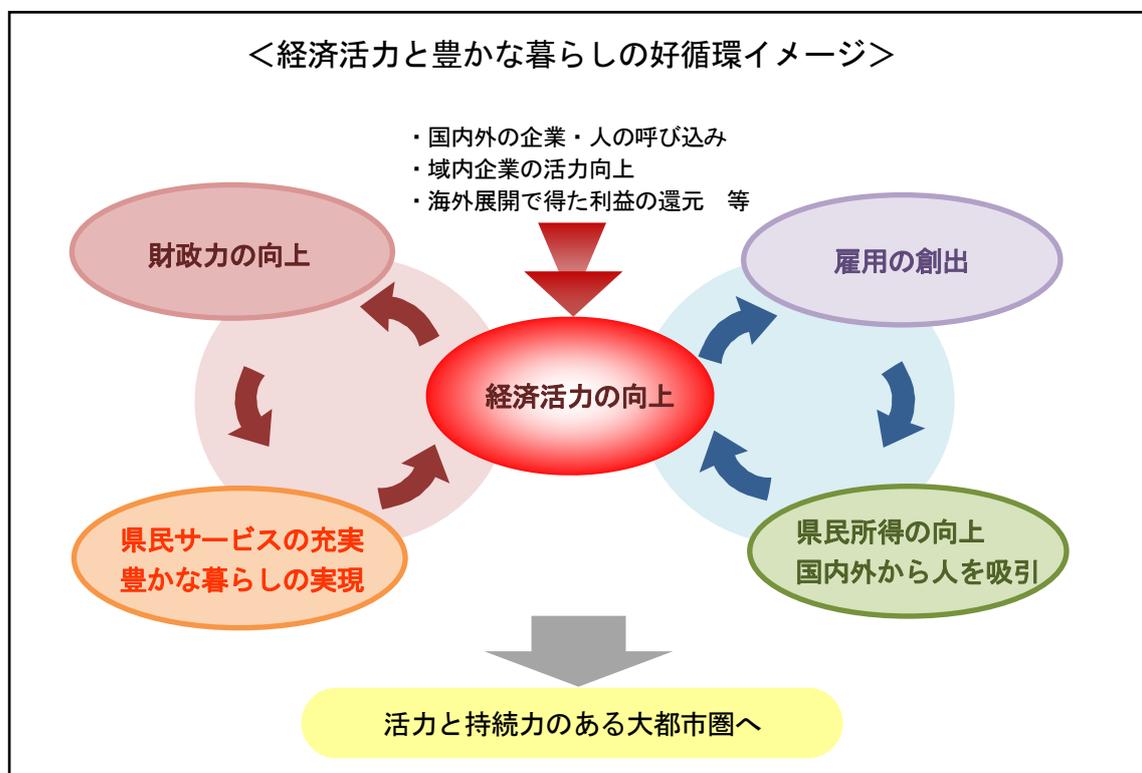
1. 中長期的な展望を持った地域づくり

- ◆新東名・新名神高速道路に加え、名古屋環状2号線、東海環状自動車道が完成するなど、2020年頃に中京大都市圏内の広域交通ネットワークが概成する。2020年には、東京オリンピックが開催され、2027年度には、大都市圏のあり方など国土構造に大きな変化をもたらすリニア中央新幹線が開業する。
- ◆この2020年、2027年を念頭に置きながら、交通基盤の整備や空港・港湾などの世界との直結性の強化、企業誘致、さらには、こうした節目の年をターゲットとしたイベントの開催やそれを見据えた魅力づくりなど、戦略的に中京大都市圏づくりを進めていく。
- ◆2015年頃には人口減少社会に移行し、さらに2022～24年には団塊の世代が後期高齢者となって医療や介護などの支援が必要な高齢者が一気に増加していくと見込まれる。こうした人口構造の変化を念頭に置きながら、安心・安全に暮らせる地域社会の仕組みを構築していくとともに、誰もが社会の支え手として活躍していくための人づくり、社会づくりに取り組んでいく。



2. 経済活力と豊かな暮らしの好循環

- ◆2030年に向け、高齢化に伴う医療・福祉等の行政ニーズが拡大していくことが見込まれる中、第一に取り組むべきは、国内外から企業や人を呼び込み、域内企業の活力向上はもとより、企業が海外展開で得た利益の還元などを図りながら、経済活動の活発な地域にしていくことである。それによって、財政を豊かにし、不断の行財政改革に取り組みながら、医療、福祉、教育などの県民サービスを向上させ、県民の豊かな暮らしの実現につなげていく。
- ◆こうした活発な経済活動により、新たな雇用が生まれ、県民の所得が向上するとともに、国内外から人を呼び込み、それによって、新たな市場や産業が生まれていく。
- ◆このような経済活力と県民の豊かな暮らしの好循環のもとで、活力と持続力のある大都市圏として発展していく。



3. あいちビジョン 2020 の基本目標

- ◆2030年の社会では、大都市圏への人口や企業等の集中がさらに進んでいることが想定される中、当地域としては、リニアの開業による三大都市圏の役割の変化も見据えつつ、我が国の成長をリードする強い大都市圏をめざしていく必要がある。
- ◆2030年に向けては、「リニアを生かし、世界の中で存在感を発揮する中京大都市圏」、「日本の成長をリードする産業の革新・創造拠点」、「安心安全で、誰もが夢と希望を抱き、活躍する社会」の3つの愛知の姿の実現をめざしていく。
- ◆そのための戦略として、東京オリンピックが開催される2020年、リニア中央新幹線が開業する2027年をターゲットに置きながら、ハード・ソフト両面から、新しい時代に飛躍できる大都市圏づくりを進めていく。
- ◆そして、日本一元気な経済活動の活発な地域をつくり、それによって、財政を豊かにし、県民サービスの向上により、豊かな県民の暮らしを実現していく。さらに、そうした活発な経済活動が生み出す雇用により、県民所得の向上とともに国内外から人を呼び込む好循環を実現し、活力と持続力を持つ大都市圏へと発展させていく。

基本目標

日本一の元気を暮らしの豊かさに

